

子どもの栄養改善 1000 日アプローチプロジェクト 2021 年度報告書

(認定特活) シェア＝国際保健協力市民の会

<プロジェクト概要>

地域: プレアビヒア州トゥバエンミエンチェイ郡保健行政区の 4 ヶ所の保健センター管轄区 (39 村)

直接対象者: トゥバエンミエンチェイ郡保健行政区の 4 ヶ所の保健センターとそのスタッフ 48 名、保健ボランティア 80 名、自治体女性子ども委員会(州、郡およびコミューン各レベル)11 名、計 131 名

間接対象者: 上記 4 ヶ所の保健センター管轄区の 2 歳未満の乳幼児約 1,100 名とその養育者、および妊産婦 890 名

プロジェクト目標: コミュニティでの子どもの健康増進活動定着により、2 歳未満児の栄養状態が改善される。

2021 年度の活動においても、新型コロナウイルスの影響下の中での活動となった。特に、4 月のカンボジア新年の期間においては、州間の移動を全面的に禁止されるロックダウンが実施された。プレアビヒア州においては、首都から離れた農村地帯ということもあり、カンボジア全土の中での感染者数は非常に抑えられていたことから、乳幼児健診等の保健教育の活動については、感染症対策の措置を講じながら、また参加人数の制限などを行いながら活動を継続した。

■乳幼児健診の実施

ロックダウンが実施されていた 4 月には活動が停止せざるを得ない状態であったが、コロナ禍であっても、参加者の手指消毒や機材の消毒を行い、感染症対策の措置をとりながら、実施をしてきました。2017 年から、シェアがプレアビヒア州で活動を続けていく中で、州保健局も乳幼児健診を定期的実施しながら、子どもの成長を見守っていくことの大切さを理解し、シェアの活動の早期再開につながる事ができた。また、大きな村では、午前と午後の 2 回に分けて、人数制限を行いながら、実施した。コロナによって、村の人々の生活への影響も少なからずあり、今後においても引き続き、妊産婦や子どもたちの健康を見守っていく必要があることを痛感しています。



乳幼児健診の実施



離乳食教室実施に向けての準備

■エンドライン調査の実施

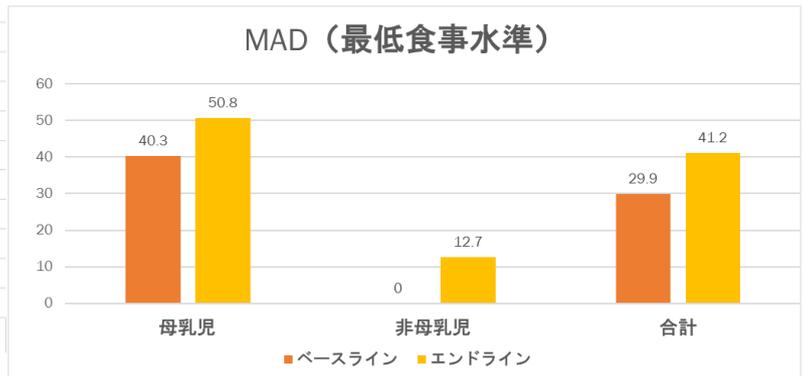
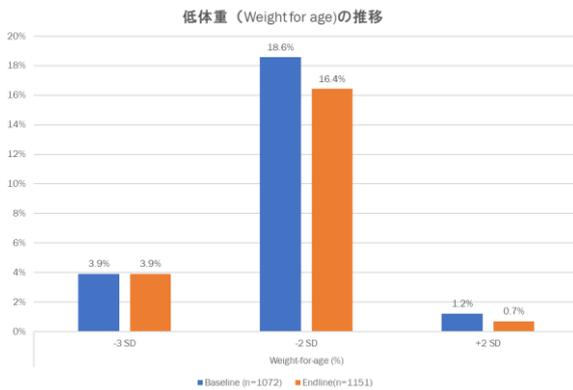
2021 年 5 月～7 月にかけて、2017 年から実施しているプロジェクトの効果をはかるエンドライン調査をとして、活動対象地における 2 歳未満児 1151 名の身体測定、養育者 250 名・妊産婦 150 名のインタビューを実施した。調査結果については、11 月の国際保健医療学会、12 月の栄養サミットサイドイベントでも発表した。



エンドライン調査に向かう様子



インタビューの様子



- ・ プロジェクト介入前と比較して、低体重児の子どもが **18.6%→16.4%**に減少した。
- ・ また、栄養行動の指標である WHO が推奨する最低食事水準(MAD)については、**29.9%→41.2** (11.3%)の改善が確認された。